

中部地区の社会教育をつなぐ、ひろげる

わくわく中部



中部教育局社会教育担当だより 令和4年12月6日発行

12月の主な行事予定

- 12月16日(金)人権教育プログラムファシリテータースキルアップ研修会(倉吉体育文化会館)
- 12月18日(日)中部ハイスクールフォーラム2022 (三朝町総合文化ホール)
- 12月23日(金)「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータフォローアップ研修会兼家庭教育支援チーム員等研修会 (伯耆しあわせの郷)

大切なのは、「何をめざす」のか？

11月14日(月)に令和4年度鳥取県「コミュニティ・スクール推進研修会」兼「地域学校協働活動研修会」が、淀江文化ホール(さなめホール)にて開催されました。

前半のパネルディスカッションでは、岩美高等学校及び山口県の萩東中学校がそれぞれ事例発表を行いました。岩美高等学校の「地域になくてはならない学校」「中学生が『行きたくなる』学校」を目指した取組、萩東中学校学校運営協議会の家庭教育支援事業立ち上げなど、非常に参考となる事例を聞くことができました。改めて、学校・家庭・地域の「人々のつながり」の大切さについて考えさせられました。

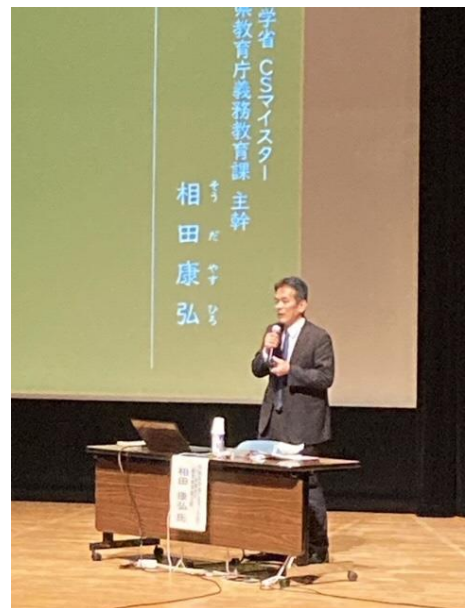


後半は文科省CSマイスターである、山口県教育庁義務教育課の相田主幹の講義でした。特に重要なのが、CSと地域学校協働活動の関係性でした。

大切なのは、「何をめざす」のか？

- ①どうやって、子どもたちに「生きる力」を身に付けるのか？
- ②「何をするか」ではなく、「活動」を実施する上で「何が大切」か？
- ③地域・学校・保護者・子どもたちの想いに寄り添う「人」は誰なのか？

その他見えにくい学力(思考力・判断力・表現力)とされる非認知能力をどのように育てるのか、「高等学校」総合的な探究の時間につながる中学校までの総合的な学習について、また、学校だよりのタイトルからその意識がわかることや、学校評価ではなくそれぞれの自己評価が大切であることなど、重要な内容がたくさんありました。マンガやイラストを使った内容も非常にわかりやすかったです。時間の関係で一部省略されたのが残念ではありましたが、とても、中身の濃い充実した研修でした。



自己実現を図るための方法

11月22日(火)、倉吉未来中心にて令和4年度県・市町村社会教育主事及び社会教育担当職員研修会兼鳥取県地域コーディネーターフォローアップ研修会を行いました。今回は、講師にTIEON(タイオン)教育 中宇地昭人代表を迎え、あの大谷選手も高校時代から実践していた「自己実現を図るための方法」について学びました。

前半は、このTIEON教育の考え方について学び、早速各々の目標設定をしました。この目標は、未来の自分が目標を達成していると仮定して書きます。(自分を励ますように)次に、その目標を達成するための行動をいくつか書き出します。「心」・「知識・技能」・「体」・「生活」とバランスを考えて)

後半は、そのいくつかの行動を可能にするための、さらに細かなステップをそれぞれ書き込んでいきます。これを続けると、60以上の項目が並ぶことになります。既に参加者の頭はパンク状態。久しぶりに頭が疲れた～！と悲鳴があがっていました。要は、目標設定したことに日々のチェックや修正を行い、ルーティーン化することです。これが自身の自己実現サイクルとなるわけです。

【重要なキーワードは5つ】

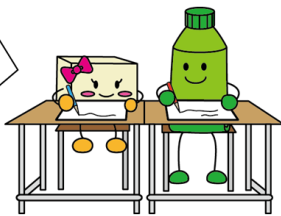
- ①目的目標づくり ②行動づくり ③計画づくり ④実践行動 ⑤振り返り



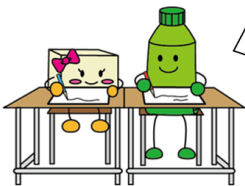
ちゅうぶくん

～今年のクリスマスは～

もう十二月ね。今年も早かったね。



十二月つて、楽しみだな。だって、もうすぐクリスマスだもん。



去年、一昨年とサンタさんもコロナで航空禁止や自粛やらで大変だったけど、今年はその分、期待できるかも！



世界中物価高騰で、今年もサンタさんは規模縮小ね。



またですか！



10年後・20年後を見据えて「継続」する

11月24日(木)に、第4回鳥取県子育て・家庭教育支援員フォローアップ研修が新日本海新聞社を会場に開催されました。賀露地区公民館は様々な活動をとおり、地域の中で安心できる場・子育て等学びの場・出会いの場とした「公民館を核とした家庭教育支援」の取組について事例発表されました。

また、岡山県勝央町の家庭教育支援チームは、子どもの社会問題の一因が家庭環境の影響と捉え、子ども・若者をサポートする体制づくりを進めた取組について発表されました。特に印象的だったのは「担当職員が交代しても続く体制づくり」であり、それが顔の見える関係づくりや町民全体で子ども・若者を見守る体制づくりへと続いていることでした。単なる形ではなく、10年・20年先をも見据えたものだからこそ、着実に続いているのかもしれない。



【あとがき】

昨年の12月は、近年にない大雪で大変でした。子どもの頃なら大喜びでしょうが、車での通勤や移動には苦痛でしかありませんでした。なぜなら、昨年秋に大型の4WD車を売ってしまい、次の車にするまで前輪駆動車だったからです。雪道でスムーズに進めず、挙句の果てには庭先でスタック。大人2人がかりで押してダメなものが、JAFを頼んでもものの2、3分で脱出、もう情けないやら。米子空港に4時間もかけていくような印象に残る年末でした。

今年の積雪はどうでしょうか。みなさん安全運転で！

中部教育局 社会教育担当係長 徳永正樹

電話 0858-23-3253

FAX 0858-23-5203

E-mail tokunagama@pref.tottori.lg.jp

